

東京スコラ・カントールム 五島列島巡礼の旅

主に捧げる ～五島列島～ 賛美のコンサート

指揮 青木 洋也
合唱 東京スコラ・カントールム
オルガン 中田 恵子

◎ 2016. **6.18** Sat
若松島 土井ノ浦教会ご聖堂

◎ 2016. **6.19** Sun
中通島 青方教会ご聖堂

開場 15:30 開演 15:45



中通島 希望の聖母像 [photo by YA]

東京スコラ・カントールム《主に捧げる ～五島列島～賛美のコンサート》によるごあいさつをいただきました。風光明媚で、長い信仰の歴史を持つ五島列島で、みなさまと共に賛美を捧げる喜びを分かち合う恵に感謝いたします。旅のきっかけは、昨年、常任指揮者の青木洋也先生がこの地を訪れた折り、み心によって遣わされた我が団員に思いが起こされ、突き動かされたことにあります。スコラとしても是非実現したいとの彼の熱い祈りによって、五島列島の素晴らしい教会を巡礼し、このような機会を与えていただける旅が実現しました。団員一同、働き人を与えられ、み心が実現した恵を、主に感謝を捧げます。演奏会では五島列島ゆかりの年である、1865年前後に活躍していた作曲家の作品を演奏いたします。五島列島の教会で、日頃研鑽を積んでいる教会音楽を演奏できる喜びとともに、過去の苦難の歴史に思いを馳せつつ、私どもの思いがお伝えできるよう、精一杯、演奏してまいります。主に栄光がありますように。

東京スコラ・カントールム 代表 市田 正英

— プログラム —

主の祈り Pater noster

[作曲:1873年]
シャルル・グノー

めでたし、まことのお体よ Ave verum corpus

[作曲:1860年頃]
カミーユ・サンサーンス

ここは神が造られた場所 Locus iste

[作曲:1869年]
アントン・ブルックナー

ああ、救いのいけにえよ O salutaris hostia

[作曲:1860年頃]
カミーユ・サンサーンス

キリストは人間の姿で現れ Christus factus est

[作曲:1884年]
アントン・ブルックナー

小ミサ 第7番 八長調 Messe brève

[作曲:1877年]
シャルル・グノー

プッチャン師やド・ロ師が、まだフランスにおられたころ、新しく作られて、耳にされたかもしれない曲を演奏いたします。フランスのグノーとサンサーンス、また国は違いますが、オーストリアの信仰者、ブルックナーの曲です。

まず、グノーは、聖職者を志したこともあるといわれています。宗教曲はアヴェ・マリアがよく知られていますが、特に後半生に多数作曲しています。今日は、そのうちから『**主の祈り**』と『**小ミサ 第7番 八長調**』を演奏します。

『**主の祈り**』は、冒頭の「わたしたちの父よ」の呼びかけ部分と、最後の「悪からお救いください」は、フーガ、つまり追いかける形式とし、中間部分はホモフォニーといわれる普通の四部合唱の形式で作られています。

『**小ミサ**』は、グノーが長年一般の聖歌隊の指導に携わっていたためか、誰でもが歌える簡潔な、垢抜けした美しいミサ曲に仕上がっています。サンクトゥスの後、ベネディクトゥスの代わりにオ・サルタリスが挿入されていますが、これは、同時代のロッシーニのミサ曲でも挿入されているのを見てもわかるとおり、当時のフランスでは、このような慣習もあったものと考えられます。

次にサンサーンスです。サンサーンスは、宗教曲はさほど多くは作っていませんが、多くの作曲家が手掛けている『**めでたし、まことのお体よ**』(アヴェ・ヴェルム・コルプス)には、2曲があります。簡素な美しさの中にも、「その穿たれた脇腹から」のところは変ト短調で歌われ、そして、死の試練の中にあつて天国の幸いを味わわせていただく願いとつながってゆきます。

もう一つはグノーのミサ曲の中にもあつた『**ああ、救いのいけにえよ**』(オ・サルタリス)です。これはベネディクションで歌われることが多い、聖体賛歌の典型的なものですが、サンサーンスは女声、男声の各パートが美しく歌い継ぐ、ことさらに美しい構成に仕上がっています。

これまでのフランスのロマン派の作曲家とは異なり、ブルックナーといえばドイツロマン派の巨匠として知られていて、その合唱曲は大規模なものが有名ですが、きょう紹介するようなアカペラ(無伴奏)小曲も作っています。『**ここは神が造られた場所**』は、オーストリアのリントの大聖堂に付属した小聖堂のために作ったもので、歌詞は創世記の「ヤコブのはしご」と、出エジプト記の「モーセの燃える芝」の項から構想されたものです。

『**キリストは人間の姿で現れ**』は、現在の聖週間の典礼で歌われる詠唱ですが、当時は昇階唱として歌われたものです。短い曲の各部分の和音の動きなどが、歌詞に見事に対応している、珠玉の名曲といえます。

おもな日本キリシタン史 ～ザビエル来日～殉教～禁教～潜伏～信徒の発見～	
1549	フランシスコ・ザビエル来日・・・キリスト教伝来
1587	バテレン追放令発布・・・南蛮貿易継続のため、宣教師の長崎滞在は許可
1597	日本26聖人の殉教・・・豊臣秀吉による最初のキリスト教迫害
1614	禁教令発布・・・宣教師の大部分が国外追放となる
(キリシタン潜伏)	
1853	ペリー来航、開国・・・54年以降、米・蘭・露・英・仏との間に「和親条約」「修好通商条約」調印
1865	大浦天主堂完成・・・居留地に住む外国人のための礼拝堂が建立
//	信徒発見・・・250年以上潜みながら信仰を守っていたことは、世界宗教史上の奇跡と言われる
1873	キリシタン禁教令廃止・・・禁教を掲げた高札の撤去

本日演奏する
作曲家の生没年

1818～1893 グノー
1824～1896 ブルックナー
1835～1921 サンサーンス

●主の祈り Pater noster

天におられるわたしたちの父よ
み名が聖とされますように
み国が来ますように
み心が天に行われるとおりに、
地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を
今日もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしてください、
わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑に陥らせず、
悪からお救いください。

●めでたし、まことのお体よ Ave verum corpus

めでたし、まことのお体よ
乙女マリアより生まれた。
真の苦しみを受け犠牲となられた。
人類の為に十字架上で。
その穿たれた脇腹から
水と血が流れ出た。
天国の幸福を予め味わわせてください
わたしたちの死の試練の時に。
アーメン。

●ここは神が造られた場所 Locus iste

ここは神が造られた場所、
それは何にも喩えがたい秘蹟、
そこには何の欠点もない。

●ああ、救いのいけにえよ O salutaris hostia

ああ救いのいけにえよ、
天の門を開く方よ、
われらに敵の戦いを抑える力を与え、
助けを授けてください。

●キリストは人間の姿で現れ Christus factus est

キリストは我らのために現れ
死に至るまで従順であられた
しかも十字架の死に至るまで。
それゆえ神はキリストを高く上げて
名をお与えになった、
すべてに勝る名を。(フィリピン人への手紙2. 7~9)

[あわれみの賛歌] Kyrie

主よ、憐れみ給え。
キリスト、憐れみ給え。
主よ、憐れみ給え。

[栄光の賛歌] Gloria

天のいと高き所には神に栄光、
地には善意の人に平和あれ。
われら主を誉め、主を讃え、
主を拝み、主をあがめる。
われら主に感謝し奉る、
主の大いなる栄光のゆえに。
神なる主、天の王、
全能の父なる神よ。
主なる独り子、イエス・キリストよ。
神なる主、神の小羊、父のみ子よ。
世の罪を除き給う主よ、われらを憐れみ給え。
世の罪を除き給う主よ、
われらの願いを聞き入れ給え。
父の右に座し給う主よ、
われらを憐れみ給え。
主のみ聖なり、
主のみ王なり、
主のみいと高し、イエス・キリストよ。
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。
アーメン。

[感謝の賛歌] Sanctus

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の神なる主。
主の栄光は天地に満つ。
天のいと高きところにホザンナ。

[ああ、救いのいけにえよ] O salutaris hostia

ああ救いのいけにえよ、
天の門を開く方よ、
われらに敵の戦いを抑える力を与え、
助けを授けてください。

[平和の賛歌] Agnus Dei

神の小羊、世の罪を除き給う主よ、
われらを憐れみ給え。
神の小羊、世の罪を除き給う主よ、
われらに平安を与え給え。

―― 出演者プロフィール ――

青木 洋也 カウンターテナー／東京スコラ・カントールム常任指揮者

東京藝術大学大学院で古楽演奏、エリザベト音楽大学大学院で宗教音楽学を学び、在学中より定期的に渡欧して研鑽を積む。宗教音楽を専門とし、J.S.バッハの《マタイ》《ヨハネ》の両受難曲や、多数のカンタータの独唱をつとめる。バッハ・コレギウム・ジャパンの主要メンバーとして国内外の公演・録音に参加している。

近年は、合唱指揮者としても活躍しており、音楽誌上で「隙のない音楽づくりと、そのナンバーにふさわしい情景描写の的確さ、声楽・器楽の見事なまとめ方は、彼の適応性とこれまでの経験の基盤がモノを言っている」と高く評価されている。2013年2月ニューヨーク・カーネギーホールにてヴェルディ《レクイエム》、2015年1月にジュネーブ・ヴィクトリアホールにてヘンデル《メサイア》、3月にライプツィヒ・聖ニコライ教会にてバッハ《ヨハネ受難曲》を指揮し大成功へと導いた。

青木洋也ブログ <http://hiroct.exblog.jp/>

中田 恵子 オルガン

東京女子大学文理学部社会学科卒業後、東京藝術大学音楽学部器楽科オルガン専攻卒業。2011年に同大学院音楽研究科修士課程を卒業、その後渡仏。パリ地方音楽院で研鑽をつみ、2014年、審査員満場一致の最優秀の成績で演奏家課程を修了。これまでにオルガンを内海恵子、三浦はつみ、廣野嗣雄、廣江理枝、クリストフ・マントウの各氏に師事。チェンバロを大塚直哉、鈴木雅明、ノエル・スピートの各氏に師事。2013年にフランスのビアリッツにて行なわれた第11回アンドレ・マルシャル国際オルガンコンクールにて優勝。併せて優れた現代曲解釈としてGiuseppe Englert賞を受賞する。帰国後は国内外で幅広い演奏活動を行なう。日本キリスト教団鎌倉雪ノ下教会オルガニスト、玉川聖学院オルガニスト。2016年4月より、東京藝術大学教育研究助手。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会会員。

東京スコラ・カントールム

1979年2月11日、教会音楽の研究、演奏を目的として創立。年1～2回の教会を中心とした定期演奏会、音楽による奉仕活動等を行っています。発足以来、一貫して「歌うことは倍祈ること」、「理解されるよりも理解する立場に」を根幹として、チャリティーによる演奏会活動を目指し、聖グレゴリオ聖歌から現代まで多岐にわたる教会音楽の演奏を続けています。演奏会の収益金は主にキリスト教系社会福祉関連団体への献金を行っています。青木洋也先生を常任指揮者に、藤崎美苗先生（ソプラノ）、浦野智行先生（バス）をボイストレーナーとしてお迎えしています。また、ドイツから教会音楽で活躍する客演指揮者を定期演奏会等に招聘しています。逆に、2015年までの5回、教会音楽の原点に巡り会うべくドイツとその周辺国への音楽研修旅行を実施しました。また、1997年には26聖人殉教400周年を記念した長崎旅行を、2009年5月には、深い関係を有する聖グレゴリオの家と共催で創立30周年記念演奏会（第51回定期）を開催しました。最近では、既に3回福島県南相馬市のカトリック原町教会を定期的にお訪ねし、東日本大震災の犠牲者の安らかな憩いを祈り、被災者の苦しみをお慰めし、一刻も早い復興を祈る目的で主日のミサでの奉唱、地元の合唱団のクリスマスコンサートへの賛助出演、地元老人福祉施設をお訪ねする活動を行いました。

ソプラノ：浅海榮子／池田佳代／小澤幸枝／小泉聡子／島郁子／戸渡さおり／平塚礼子／堀仁美／松岡千代美／松原敏江

アルト：浅海優子／井上匡子／上田愛枝／岸本敬子／越真理子／澤井春代／和田崇子

テノール：齋藤成八郎／奈須守一／町村彰

バス：浅海直之／市田正英／岩崎次郎／村田隆裕

♪♪♪ これまでの主な献金先 ♪♪♪

社会福祉法人 東京いのちの電話

財団法人 東京カリタスの家

社団法人 青少年健康センター

財団法人 日本聖書協会

特定非営利活動法人 キリスト教メンタルケアセンター

キリスト教カウンセリングセンター

財団法人 兵庫県肢体不自由児協会

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会

社会福祉法人 新生会

犬養道子基金

社会福祉法人 牧の原やまばと学園

社会福祉法人 聖教主福祉会

特定非営利活動法人 東京ダルク／横浜ダルク

学校法人 日本聾話学校

ベシヤワール会

社会福祉法人 滝乃川学園

イエス・アシュラム支援の会日本

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

宗教法人 聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所

カトリック仙台教区（「東北関東大震災仙台教区支援」のために）

社会福祉法人 愛の泉